

# 高校における性に関する授業について

～生徒と教師のニーズの相違に着目して～

小林由香利\* 下村淳子\*\* 岡田 歩\*\*\* 天野敦子\*\*\*\*

\*愛知県立五条高等学校

\*\*愛知教育大学附属高等学校

\*\*\*岡山県金光学園中学校

\*\*\*\*養護教育講座

## About the Class Concerning Sex Education at Senior High School

— Directing Our Attention to the Difference between Students and Teachers —

Yukari KOBAYASHI\*, Junko SHIMOMURA\*\*, Ayumi OKADA\*\*\*, Atsuko AMANO\*\*\*\*

\*Gojo Senior High School, Zimokuzi, Aichi 490-1104 Japan

\*\*The Senior High School attached Aichi University of Education, Kariya, Aichi 448-8545 Japan

\*\*\*Kinkou Junior High School, kinkou, Okayama, 791-0104 Japan

\*\*\*\*Department of School Nursing and Health Education, Aichi University of Education, Kariya, Aichi 448-8542 Japan

### I 序 論

今日の我が国においては、無原則な性情報の氾濫、援助交際、HIVをはじめとする性感染症の問題、薬物乱用問題、若者の性の在り方など、性に関わる様々な問題が指摘されている<sup>1)</sup>。携帯電話の普及により性産業の中に高校生が簡単に入っているため、出会い系サイトを利用した援助交際の事件が後をたたない。また、性に関して積極的である一方、知識不足による認識の甘さが伺え、性感染症の増加や人工妊娠中絶が問題となっている。さらに、ストーカーなどによる被害で精神的に傷つき、命までも失うといった事件を耳にするようになった。

このように、性に関する意識や価値観が多様化し、児童生徒を取り巻く社会環境や家庭環境は大きく変化している。

性教育の歴史<sup>2)3)</sup>を見ると、第二次大戦終了以前はほとんどされていなかったが、大戦終了以降売春婦が横行し、復員兵が多数の性病を持ち帰り急増したため、政府が純潔教育を普及徹底させた。この純潔教育は「両性間の精神的、肉体的関係を正しくするための教導または対策」を目的としており、子ども達の発達段階別に主として精神面、行動面の「正しいあり方」を中心とした指導内容となっていた。しかし、1960年代に入ると、欧米から持ち込まれた性解放や女性解放の思潮が一般の人の中にも浸透し、性否定をうたっている純潔教育に対する批判が強くなり、性教育が純潔教育にとってかわった。さらに、1980年代に入ったところから、

性教育＝セックス（下半身）の教育から、性教育＝セクシュアリティ（人格としての性的人間性）の教育へと規定され、タブーや偏見から正確な知識へとといった新しい性教育が始められた。このように、性教育は時代背景や社会の変化に伴って変化しており、今日においても変わり続けている性に関する実態に対応した21世紀の性教育を考える必要があるのではないと思われる。

村瀬幸浩<sup>4)</sup>は「性について一番知りたいこと」と「今までの性教育で教わったこと」はみごとにズレていて、このままいくといくら熱心に教えても、本当に知りたいことには答えておらず、生徒にとって生きる力になりえないのではなかろうか」と指摘している。また、喜多村<sup>5)</sup>の研究では、『性教育に直面する教師には「何を、いつ、どのように教えるか」について戸惑いも見られ、また青少年との意識的ギャップあるいは教師間における意識の差異などによって困惑している側面もある』と言っている。しかし、高等学校では生徒の性的成熟や性意識、性行動の実態を踏まえ、幅広い観点から性に関する授業を一層充実させる必要があるということは、今までの多くの研究でも言われてきた<sup>6)7)8)</sup>。

そこで、本研究では思春期から青年前期にかけて、性への関心も高まる時期である高校生と同一高校の教師を対象に性の授業の実態を調査した。具体的には性の授業に対する高校生と教師の意識を把握し、生徒が教えて欲しいことと教師が教えていることとどのような相違があるのかについて分析した。

## II 研究方法

### 1 データの収集方法

#### (1) 対象及び調査方法

愛知県下の某国立高校の全校生徒561名(男子198名, 女子363名, 1年生201名, 2年生190名, 3年生170名)を対象とし, 自己記入式質問紙による集合調査法で授業後のホームルームの時間を利用し, 各学級担任の配布回収によって行った。出席生徒553名に質問紙を配布し, 回収数は552(男子195, 女子357)で, 回収率は99.8%, 有効回答数543(有効回答率98.4%)であった。回答者の性別は, 男子191名(35.2%), 女子352名(64.8%)であり, 学年の内訳は, 1年生198名(36.5%), 2年生181名(33.3%), 3年生164名(30.2%)であった。

また, 上記高校の全教師36名を対象とし, 自己記入式質問紙による集合調査法で, 調査当日の欠席者を除く31名に質問紙を配布した。回収数は23で, 回収率は74.2%であり, すべて有効回答であった。

#### (2) 調査時期

2001年4月9日(生徒対象)

2001年10月18日(教師対象)

#### (3) 調査項目

##### 1) 生徒に対する調査項目

① 今まで受けた性の授業

② 今後生徒が望む性の授業

##### 2) 教師に対する調査項目

① 教師が行っている性の授業

② 今後必要だと考える性の授業

なお, 性に関する授業の項目は, 「性教育新指導要項解説書」<sup>9)</sup>と先行研究<sup>10)11)</sup>を参考に21項目を取り上げた。

### 2 分析方法

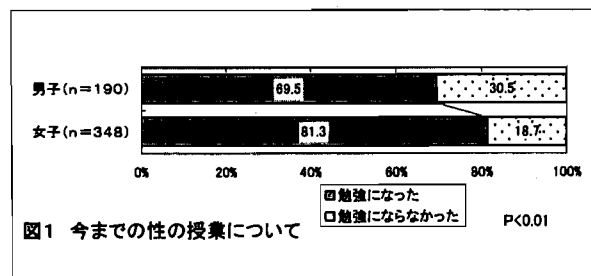
生徒と教師を対象とした「今までの性に関する授業」を明らかにし, 性に関する授業の現状を捉えた。また, 今後生徒が望む授業と教師が取り組みたい授業を把握し, その相違を見た。調査結果は統計ソフト spss version 10を用い, カイ二乗検定で統計的に処理した。

## III 結果

### 1 高校生から見た性の授業

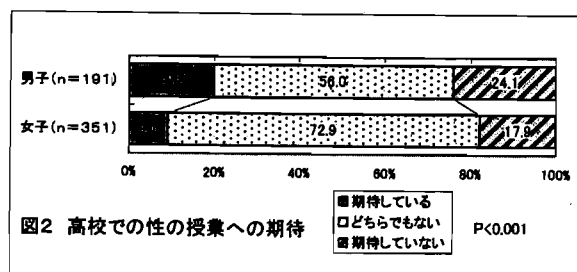
#### (1) 性の授業に対する評価

今までの授業について「勉強になった」と回答した者は, 男子30.5%, 女子81.3%と女子の方が多く, 有意な差がみられた ( $P < 0.01$ ) (図1)。

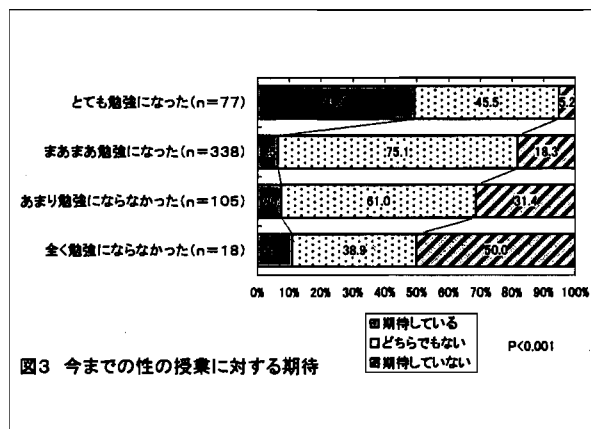


#### (2) 高校での性の授業への期待

「高校での性に関する授業に期待していますか」という質問に対して, 男女ともに「どちらでもない」が最も多く, 女子よりも男子の方に「期待している」者が有意に多かった ( $P < 0.001$ ) (図2)。



次に, 「今までの授業が勉強になったか」と「高校の授業への期待」の関係を見ると, 「とても勉強になった」者のうち49.4%と約半数の者が「期待している」と回答していた(図3)。また, 「全く勉強にならなかった」と回答した者のうち50.0%の者が「期待していない」と答えていた。さらに, 「まあまあ勉強になった」「あまり勉強にならなかった」者のうち「どちらでもない」と答えた者はそれぞれ75.1%, 61.0%であった。



さらに、高校での授業に「期待している」と答えた者に対して、期待している理由を聞いたところ、男女ともに「正しい知識を得たいから」が、男子47.4%、女子48.4%と最も多かった。性別で見ると、「おもしろい」「関心がある」は、女子よりも男子に、「自分に関係がある」「他人の考えを知りたい」は、男子よりも女子に多かったが、有意な差はみられなかった(図4)。一方、高校での授業に「期待していない」と答えた

生徒に対して、期待しない理由を聞いたところ、「つまらない」「日常生活に役立たない」「他から情報を得る」が多かった。性別で見ると、「つまらない」「正しい知識を持っている」は女子より男子に、「日常生活に役立たない」「他から情報を得る」「関心がない」は男子より女子に多かったが、有意な差はみられなかった(図5)。

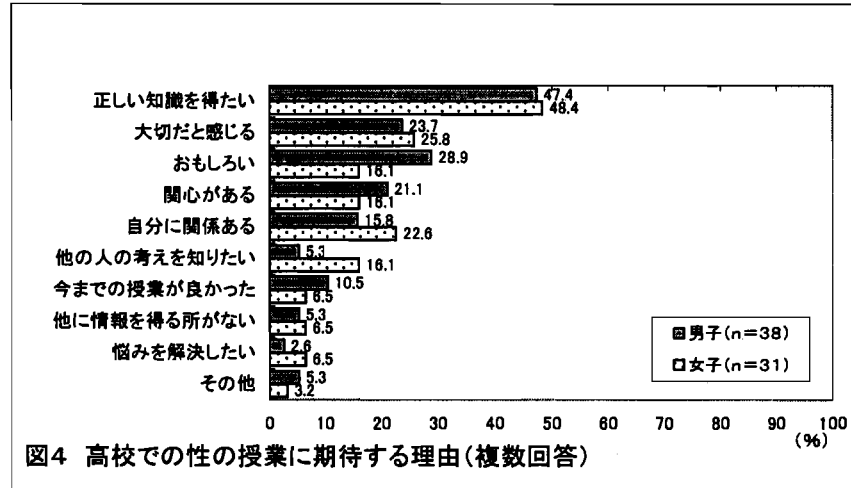


図4 高校での性の授業に期待する理由(複数回答)

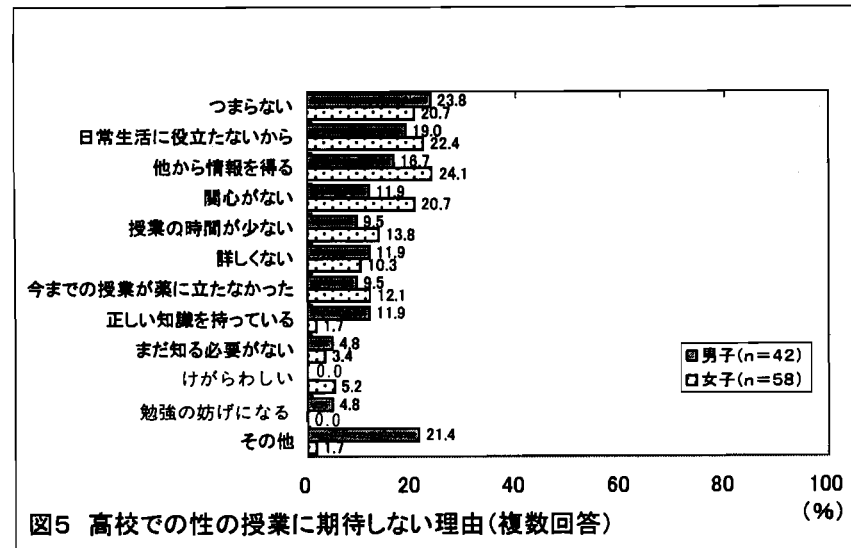


図5 高校での性の授業に期待しない理由(複数回答)

図6は生徒が教えて欲しい内容を示した。生徒が性に関する授業で一番教えて欲しい内容として、最も多く挙げたのは、「実際に日常生活で役に立つ内容」であり、男子58.1%、女子71.6%であった(P<0.01)。また、「教科書の内容」を教えて欲しいと答えた者は、男子19.0%、女子7.0%と、女子よりも男子の方が有意に多かった(P<0.001)。そして、「自分の悩みや疑問に関すること」は男子6.1%、女子13.6%と、男子よりも女子の方が有意に多かった(P<0.05)(図6)。

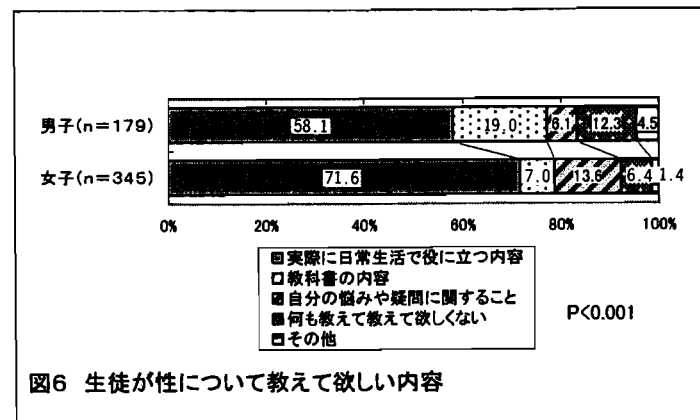


図6 生徒が性について教えて欲しい内容

2 教師が行っている性の授業

(1) 教科による授業での性の内容

約半数の教師が性の内容を授業で扱っていた。教科別でみると、保健体育や国語、社会、理科、家庭科等で扱っていた(表1)。

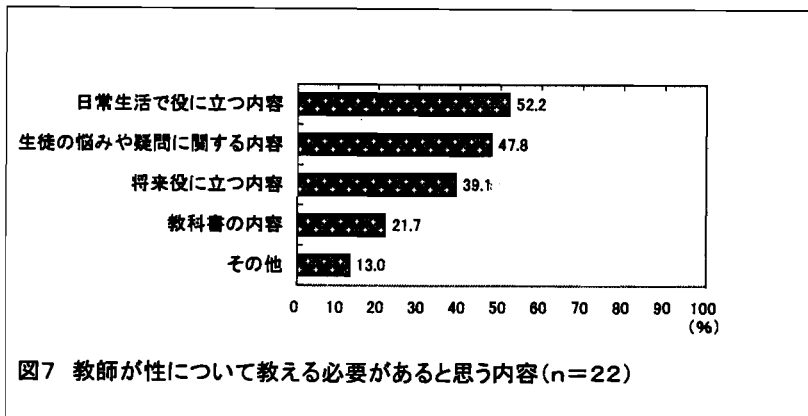
授業で教師が教えている内容については、「受精」についてが30.4%と最も多く、次いで「エイズ」「家族の役割」がいずれも26.1%で、「生殖器の発達」「結婚」「家庭・社会における男女の役割」「男らしさ女らしさ」はいずれも21.7%であった。

(2) 教師が教える必要があると考える内容

教師は今後、性に関する授業で教える必要がある内容として、「日常生活で役に立つ内容」を52.2%と最も多く挙げており、次いで「生徒の疑問や悩みに関すること」が47.8%であった(図7)。

表1 高校で教えている性の項目

	保健体育	国語	地歴公民	理科 (生物)	その他	家庭科
男女の体のしくみ	○	—	—	—	—	—
生殖器の発達	○	—	—	—	○	—
二次性徴(思春期)	○	—	—	—	—	—
初経・月経	○	—	—	—	—	—
精通・射精	○	—	—	—	—	—
性的欲求とその調節	○	—	—	—	—	—
男女の心の発達	○	—	—	—	—	—
受精	○	—	—	○	—	—
胎児の成長と出産	○	—	—	—	—	—
性交	○	—	—	—	—	—
避妊	○	—	—	—	—	—
男女交際	○	—	—	—	—	—
エイズ	○	—	—	—	○	—
性感染症(エイズを除く)	○	—	—	—	—	—
家族の役割	○	○	—	—	—	○
性情報への対応のしかた	○	—	○	—	—	—
性被害から身を守ること	○	—	○	—	—	—
結婚	○	○	—	—	—	—
家庭・社会における男女の役割	○	○	—	—	—	○
男らしさ・女らしさ	○	○	—	—	—	—



3 性の授業に対する生徒と教師のニーズ

生徒が教えて欲しい項目と教師が教える必要があると考える項目について図8に示した。生徒は、今後教えて欲しい項目として、「エイズ」が38.3%と最も多く、「避妊」30.4%、「結婚」22.9%、「性交」21.3%、「性感染症(エイズを除く)」20.2%の順であった。

また教師は、教える必要があると考えている項目として、「性感染症(エイズを除く)」41.2%が最も多く、次いで「避妊」、「性被害から身を守ること」がいずれも35.3%、「性情報への対応のしかた」が29.4%の順であった。

次に、生徒が教えて欲しい項目について性別で比較したものを表2に示した。「避妊」( $P < 0.05$ )「結婚」( $P < 0.05$ )「胎児の成長と出産」( $P < 0.001$ )は男子よりも女子の方が有意に多かった。また逆に、男子よりも女子の方が有意に多かった項目は、「性交」( $P < 0.01$ )、「男女の体のしくみ」( $P < 0.001$ )であった。

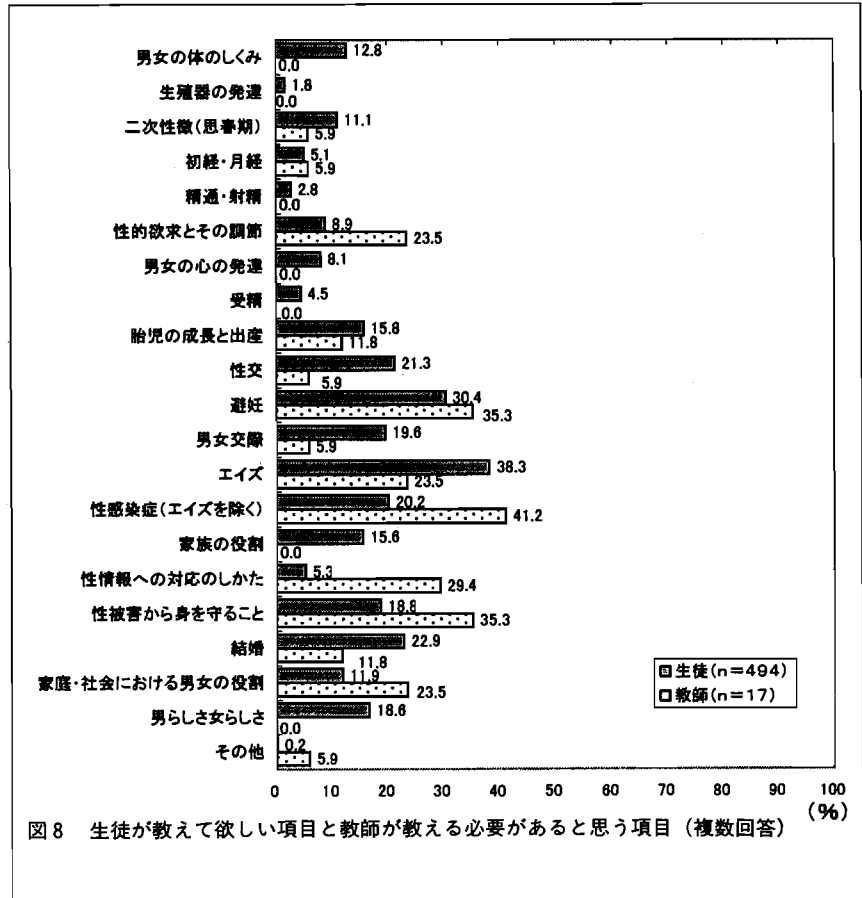


図8 生徒が教えて欲しい項目と教師が教える必要があると思う項目 (複数回答) (%)

表2 生徒が教えて欲しい項目 (男女別) (複数回答)

	生徒全体 (n=494)		男子 (n=171)		女子 (n=323)	
	度数	%	度数	%	度数	%
男女の体のしくみ	63	12.8	※※※37	21.6	26	8.0
生殖器の発達	9	1.8	6	3.5	3	0.9
二次性徴(思春期)	55	11.1	27	15.8	28	8.7
初経・月経	25	5.1	5	2.9	20	6.2
精通・射精	14	2.8	11	6.4	3	0.9
性的欲求とその調節	44	8.9	21	12.3	23	7.1
男女の心の発達	40	8.1	19	11.1	21	6.5
受精	22	4.5	8	4.7	14	4.3
胎児の成長と出産	78	15.8	5	2.9	※※※73	22.6
性交	105	21.3	※※ 50	29.2	55	17.0
避妊	150	30.4	42	24.6	※ 108	33.4
男女交際	97	19.6	35	20.5	62	19.2
エイズ	189	38.3	59	34.5	130	40.2
性感染症(エイズを除く)	100	20.2	31	18.1	69	21.4
家族の役割	77	15.6	27	15.8	50	15.5
性情報への対応のしかた	26	5.3	10	5.8	16	5.0
性被害から身を守ること	93	18.8	30	17.5	63	19.5
結婚	113	22.9	23	13.5	※ 90	27.9
家庭・社会における男女の役割	59	11.9	22	12.9	37	11.5
男らしさ・女らしさ	82	16.6	37	21.6	45	13.9
その他	1	0.2	0	0.0	1	0.3

※:  $P < 0.05$  ※※:  $P < 0.01$  ※※※:  $P < 0.001$

## 考 察

### 1 高校生が望む性に関する授業

今までの性に関する授業が勉強になったと評価している生徒が8割いるものの、今後の授業に期待している者は約1割、どちらでもない者が約7割あり、性に関する授業にあまり関心がないことが伺える。

しかし、今までの授業がとても勉強になったと感じる生徒は、今後の授業に期待している者が多く、逆に今までの性の授業が勉強にならなかった者ほど、これからの性に関する授業に期待していなかった。このことから、今まで受けてきた性の授業が、生徒の今後の授業の取り組む姿勢に影響を与えているとことが明らかになった。

また、生徒が「正しい知識を得たい」と考えている背景を見てみると、性情報の中には、科学的で正確な情報や悩み・疑問に対して正面から答えているものもある反面、誰でも入手できる雑誌、マンガ、写真集、ビデオの中には不正確な情報や性行動をあおるものもあることが挙げられる。さらに、生徒の性の相談相手としては友達が一番多いという現状を考えると、友達が必ずしも専門的な正しい知識を持っているとは言えず、適切な答えが返ってくるとは限らないため、高校生が性に関する正しい知識を得られていないことが推察できる。そのため、高校生は学校での性に関する授業を、正しい知識を得る機会として期待していることが伺える。また、大切なことを教えて欲しいと感じている生徒がいる一方、おもしろい内容を学びたいといった、性を興味本位に考えている生徒がいることも心しなければならない。

生徒が授業に期待しない理由では、「授業の内容がつまらないから」、「学校で学ぶ内容は自分の日常生活には役に立たないから」、「他から情報を得るから」が多く、学校での性に関する授業を当てにしていなかったことが伺える。このことから、生徒は授業で扱う内容を自分に関係のある事柄として捉えておらず、授業で学んだことが生徒の生活に影響を与えていないが本当は興味があり、自分の日常生活にすぐに役立つ内容を教えて欲しいと思っていることが明らかになった。また、「性に関する授業の時間が少ないから」、「あまり詳しく教えてくれないから」、「今まで受けた性に関する授業が役に立たなかったから」といった授業に関する理由も多く、生徒はこれまでに受けた授業に対する不満から高校での授業に期待していない者もいることがわかった。

### 2 高校で行われている性の授業

高校は担当教科制であるため、どの教師も性に関する内容を扱っているわけではないが、保健体育科の他に様々な教科で扱っており、薮野ら<sup>12)</sup>の報告にもある

ように、性に関する内容が幅広い分野で生徒に教えられていた。

各教科で教えている性に関する内容では、「受精」、「エイズ」、「家族の役割」を多く扱っていた。「受精」は、保健・体育の他に生物でも扱い、「家族の役割」は保健・体育の他に家庭科でも扱っているため多かったのだと考える。また、「エイズ」はエイズ教育が目されるにつれ、その重要性が広く理解されることで、教材や指導方法が充実してきたためだと考える。

### 3 生徒と教師の性に関するニーズ

生徒が高校での性に関する授業で教えて欲しいのは日常生活で役に立つ内容であり、具体的な項目として最も多かったのは「エイズ」であった。また、今まで受けた性に関する授業で印象に残った項目でも「エイズ」が最も多かった。このことは、社会的にエイズが問題となっている事柄である<sup>13)</sup>と同時に、エイズの授業は教材が多く、生徒にとって興味を持てる内容であるからではないかと考えられる。

次いで、「性交」とそれに関わる「避妊」も教えて欲しいと思っている生徒が多かった。高校生にとって性交が自分に関係のあることとなっており、エイズを含む感染症が身近な問題となっているため、避妊の種類や方法等詳しいことを知りたいと思っていることが伺える。「性交」は女子よりも男子の方が教えて欲しいと思っていた。この背景には性交が高校生にとって無関係なことではなく、竹井<sup>14)</sup>の研究の「異性への接触欲が高校3年生では、男子が90.8%、女子が34.0%と男女間に差がある」という結果からも明らかのように、男子の方が異性に触れたいという願望が強く、性交に興味・関心が強いことから、正しい知識を教えて欲しいと思っていることが伺える。一方、「避妊」は、男子よりも女子の方が教えて欲しいと思っていた。久野ら<sup>15)</sup>の研究に、「高校生が避妊に関して必要であるという認識を持っている根拠は『高校生であるため経済力がなく、妊娠したら困るし、大変である』という内容であった」という結果が示されている。このように、高校生は経済的にも出産することが難しい時期であり、避妊を行わず妊娠した場合、身体的にも精神的にも傷つきやすいのは女性であるためではないかと考えられる。そして、興味本位ばかりでなく、高校での授業に期待している者や大切な内容を扱う授業を望んでいる者が「性交について」「避妊」を教えて欲しいと思っており、高校生の関心がこれらのことに集中していることが明らかとなった。

「結婚」についての項目が上位にきた背景には、16~18歳という年頃が結婚に夢やあこがれを抱えていることが挙げられる。また、性別で比べると、男子よりも女子の方が教えて欲しいと思っていた。このことは、「『将来結婚したいか』という質問に対し、中高生

全員の女子が『したい』と答えており、女子の結婚願望はきわめて高い」という東京新聞<sup>16)</sup>の結果からも、女性が結婚・出産を人生における大きな行事として捉えていることが伺える。

「胎児の成長と出産」の項目は、印象に残った内容として挙げられていたが、高校で教えて欲しい項目としては上位に挙げられていなかった。このことは、妊娠・出産が今すぐ自分に関わる事柄ではなく、もっと先の将来のことであるため、それほど教えて欲しいと思っていないのではないかと考えられる。しかし、男子よりも女子の方が教えて欲しいと思っているのは、妊娠・出産を経験するのは女性であり、将来のために、女子が関心を持つことはうなずける。

教師は今後、教科書の知識的な内容より日常生活に役立つ内容や生徒の悩みや疑問に関する内容、将来に役立つ内容を教える必要があると思っており、具体的な項目としては「性感染症(エイズを除く)」が最も多かった。この結果の背景には、近年若年者の性感染症が増加しているといったことが挙げられる。産経新聞<sup>17)</sup>によると、『性感染症疾患全体で十代後半の女性で27.0%、二十代前半21.0%と広がっており、中でもウイルス性の新タイプの性感染症とされる性器クラミジア感染症は十代後半で男性の4.6倍となっている』という調査結果がある。このように性感染症が広がっているのは、性交渉を持つことに特別な抵抗感を持つことのない若者の「性の自由化」、「自分だけは関係ない」といった無関心さや、不十分な性教育が存在するといわれている。学校での性教育においても「誰が感染してもおかしくない」という認識をさせるべきであると考える。

また、避妊を「受胎調節」として扱うため、まだ高校生には必要ない、また避妊を教えることは、高校生に性交を奨励していると思われそうであり、避妊の知識を悪用して遊びの性交が行われることも考えられるからといった理由から、高校生への避妊の指導はきちんと行われてこなかった<sup>11)</sup>。しかし現代、前にも述べた「高校生の性交経験」のデータ<sup>18)</sup>にもあるように「高校生にとって性交はありうること」という前提に立つことが必要である。このような現状を目の当たりにし、教師は生徒にとって避妊の正しい知識が必要であると認識し始めているため、「避妊」を教える必要がある項目として挙げたことが考えられる。高校生には性交は早い、結婚するまで性交するべきではないという理想論を掲げ、性交・避妊について教えないというのでは、高校生の性の実態から目を背け、望まない妊娠、中絶や性感染症といった問題が横行するのを防げない。性交はありうることという前提に立ち指導を行えば、避妊についても正しい知識を教える必要があるということになると思われる。また、避妊は知識だけでなく実際に行うことができなければ知らないも同然である。

「1996年調査 児童・生徒の性」<sup>19)</sup>によると「高校生の避妊の実行状況が『いつも避妊する』と答えたのは男子36.0%、女子30.9%と低く、高校生の避妊に対する意識は低い」という現状がある。とりあえず、一通りの知識を教えるというのではなく、生徒自身が性交という場面を迎えた時に正しい避妊を行うことができるように指導することが大切である。そのために、実習的な指導など、授業方法を考えていく必要があるのではないかと考える。さらに、今回の調査では「性被害から身を守ること」や「性情報への対応のしかた」も教える必要があると考えている教師が多かった。「青少年性行動調査」<sup>9)</sup>による『男子の20%程度、女子の40~70%が何らかの性的被害を経験している』という結果からみても、ストーカーが社会問題となるなど性に関する犯罪が増加している現状からみても、このような性被害から身を守る方法や、氾濫している不正確で歪められた様々な性情報を見極め対応していく力を身に付けさせる教育が必要であると考える。

## V 結 語

教師・生徒ともに教科書に沿った内容だけでなく、生徒が直面し、悩んだり疑問に感じている内容が必要であるという点では一致していた。一方、生徒は自分に関係あることを教えて欲しいと考えているのに対して、教師は、生徒が自分を守ることができるような内容を教える必要があると考えていた。また、生徒は自分自身の将来を見据えてよりよい人生を送るために必要となるであろう情報を得ることを授業に求めているのに対し、教師はこれから社会に出ていく生徒が性犯罪や性被害に巻き込まれたり、意に添わぬ人生を送ることのないように必要な知識を授業で教えたいと願っていることが明らかになった。

これらの結果から生徒のニーズを反映しながらも、教師の思いや生き方にまで触れた授業を行うことにより、広い視野を持った生徒を育成することが望まれる。

なお、本論文の要旨は、第45回東海学校保健学会(2002年10月、愛知)において発表した。

## 参考文献・引用文献

- 1) 西垣戸勝：性教育は、いま、岩波新書、1995
- 2) 間宮武、松本清一：性教育マニュアル、大成出版社、1989
- 3) 江口篤寿：性の指導総合事典、ぎょうせい、1992
- 4) 村瀬幸浩：21世紀・性と性教育のゆくえ、大月書店、96~228、1998
- 5) 喜多村望：教師の性意識と性教育実践上の課題、思春期学 vol.11no.2., 185~191、1993
- 6) 日本性教育協会(編)：青少年の性行動(第4回)、日本性教育協会、東京、1994
- 7) 東京都幼稚園・小・中・高等学校性教育研究会連絡会議(編)：児童・生徒の性10年間の推移、学校図書、東京、1987
- 8) 喜多村望：教師からみた性教育の問題点、思春期学、vol.13

- no.2., 141~144, 1995
- 9) 財団法人日本性教育協会：性教育・新・指導要領解説書，小学館，1993
- 10) 林猪都子他：児童と両親の性教育に関するニーズの相違，母性衛生 vol.41 no.2., 266~270, 2000
- 11) 村瀬幸浩：性教育のこれまでとこれから，大修館書店，1994
- 12) 薙野ミエ子他，高校生の性の悩みと相談相手に関する考察，思春期学 vol.11 no.1, 102~106, 1993
- 13) 大森美千代・横井愛子：愛知教育大学平成12年度卒業論文集 5巻，愛知教育大学養護教育教室，53~56
- 14) 竹井操：高校生の性意識・性行動について，思春期学，vol. 10 no.1., 29~34, 1992
- 15) 久野孝子他：高校生の性に関する意志決定とアイデンティティとの関係，学校保健研究，vol.41 no.49, 309~319, 1999
- 16) 東京新聞2001. 9. 2：結婚観，月刊切り抜き保健2001年11月号，144~145
- 17) 産経新聞2000. 11. 24：性感染症若い女性にまん延，月刊切り抜き保健2001年1月号，175
- 18) <http://member.nifty.ne.jp/m-suga/young.html>
- 19) 東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会：児童・生徒の性，学校図書，25, 1996
- (平成14年9月11日受理)